学社連携・協働の動き

PART22

今回は、公民館と学校が連携して事業を展開している事例を紹介します。

大野中公民館と鵜野森中学校

「もちつき大会」

大野中公民館を会場に、鵜野森中学校の生徒と地域住民との交流を主なねらいとした「学社連携もちつき大会」が、昨年度末に開催されました。

ある調査では、子どもの時期に、親や教師以外の大人と話した経験がある若者ほど、仕事に充実感を持ち、自分の仕事における態度や能力、例えば、考えをわかりやすく説明すること、感情を上手にコントロールすること等に、自信を持っているという結果が出たそうです。

この「もちつき大会」も当日は多くの地域の方々の参加をいただき、子どもたちとの交流が図られました。

また、最近では臼と杵（きね）を用いた昔ながらのもちつきの光景をじかに見る機会が少なくなりました。大人が意図的に機会をつくらなければ、子どもたちに、もちをつくという経験をさせることもできない時代です。

もち米から、もちになるまでの過程の中で、大人と子どもが心の通った言葉を交わし合い、杵（きね）の重さを体で感じ、自分でついたもちを味わった貴重な体験活動となりました。

地域の行事に積極的に参加する子どもたちの姿は、生き生きと輝いていました。

星が丘公民館と星が丘小学校

講演「賢い子どもの育て方」

星が丘公民館と星が丘小学校では、心理療法士の星一郎氏をお招きし、家庭教育講演会「賢い子どもの育て方～頭のいい子より賢い子～」を行いました。この事業は、星が丘小学校と公民館との連携事業として開催されました。

星氏は子どもに対し「がんばれ」ではなく、「がんばったね」と声をかけてやること、「いい子だね」

「優しい子だね」より「具体的な行動を誉めてやることなどが大切」と話され、子どもとの接し方についての貴重な示唆をくださいました。

そして、最後に、どんな世の中になったとしても、世の中を生き抜いていくためには、次の３点が必要と主張されました。

①自己肯定感
②他人を信頼する心
③貢献

この３つをまとめて、共同体感覚と呼び、この感覚を持っている子が賢い子であると、講演を締めくくられました。